

林業技術センター
普及班便り
(第47回)

いわての林業人 26

はじめに

今月の普及班便りでは、7月28日に林業技術センターで開催された「高性能林業機械基本操作研修会」を受講した、岩手県立盛岡農業高等学校環境科学科二年生の畠山優親君をご紹介します。

○林業への興味

畠山君は、八幡平市の田山に家族



講師の説明を受ける

とともに住んでいます。田山は岩手県内でも林業の盛んな地域ですが、田山中学校に通っていた頃、帰り道で木材を積んだトラックを度々見掛けたことで、地元で木を伐っていることを意識し、林業に興味を持ったそうです。その後、中学校の職場体験で地元の林業会社（泉山林業）を選び、そこでグラップルソーなどの操作を体験したところ、とても面白かったとのこと。将来は山で高性能林業機械を操作する仕事に就きたいと考え、盛岡農業高等学校への進学を決めたそうです。引率の先生にうかがうと、今日の研修もとても楽しみにしていたとのことでした。

○研修を受講して

最初に体験したスキッドは、大型機械の運転が楽しく、機械の力強さを感じたそうです。フォワーダでは、グラップルを使った木材の積み下ろしを体験しました。運転だけだったスキッドと異なり、フォワーダはブームやアームの上げ下ろし、旋回、掴みなど工程が多いため、操作が複雑で、覚えるのが大変だったとのことでした。さらにプロセッサでは、木寄せ、送材、玉切りを体験しました。操縦席の様子について、「ロボットのコクピットとイメージが似ている」

と、興味深そうにしていました。実際に操作を体験した後の感想は、「操作は簡単ではないけれど、やっているうちに慣れてきて、楽しかった」とのこと。見ていると、最初はぎこちなかった動きが、段々と滑らかになっていくのがわかりました。また、「今回は平地だったが、山の現場では機械の安定を取るが大変そう。近くに人がいる場合には、安全確保に気を配らないと」などと、現場の作業をイメージしつつ、「ぜひ現場



プロセッサの操作

で動かしてみたい」と、たいへん意欲的でした。今回操作を体験した3台の中では、グラップル、プロセッサが特に面白かったとのこと。次回はぜひ、山の現場で高性能林業機械を使った伐採、造材作業を体験してみたいとのことでした。

○今後のこと

まずは林業のことを、もっと勉強したいとのこと。研修の待ち時間には、自由貿易協定（FTA）の締結が林業に及ぼす影響について質問するなど、日頃から広い視野で林業を勉強していることをうかがわれました。就職先は民間企業や公務員を考えているとのことですが、「やはり高性能林業機械を操作したいので、現場のある民間企業が楽しそうですね」と、夢を語ってくれました。

おわりに

研修当日の機械の待ち時間に、何気なく感想を聞いた相手が畠山君で、物腰は静かですが、熱い想いに驚かされました。担任の先生も、「静かに燃えるタイプ」と、将来を楽しみにしているようでした。

林業技術センター普及班

019(698) 1337